

【鯉ヶ沢町教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 児童生徒自身が ICT を学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるようにし、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成する。
- (2) ICT の特性を最大限に活用して、誰1人取り残すことなくきめ細かな支援をし、個々の才能を伸ばすための高度な学びや多様な学びの機会の充実を目指す。
- (3) 児童生徒が自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことで、情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルの向上と情報セキュリティ意識の醸成を図るとともに、ICT の活用を通して、社会に積極的に関与し、参加する能力の習得を目指す。

2. GIGA スクール第1期の総括

GIGA スクール構想の下、町立学校においても、国庫補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、高速大容量の校内無線 LAN や 1人1台端末、電源キャビネットなどの一体的な整備を行い、学校における ICT 環境の充実を図ってきた。

学習用端末については、令和2年度から国庫補助金（公立学校情報機器整備費補助金）や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、当該年度までに指導者用と併せて1人1台端末の整備を完了した。

同じく令和2年度に教室への無線 LAN 環境整備及び電源付端末キャビネット、専用プリンター、大型掲示装置の整備を実施したほか、校内通信ネットワークのためのインターネット回線（各校 1Gbps ベストエフォート型）も併せて整備し、学習用無線 LAN 環境の運用を開始した。

ハード面の整備と共に、ICT 機器を活用した教育、授業改善に向けた研修等を展開し、学習用ツール等を活用した授業、校務の改善が進められた。

これら ICT 環境が整備され、授業等での活用機会が増加したものの、社会的な通信量の増大傾向により、学習用無線 LAN の通信環境が不安定で速度が十分に確保されない場面も見られるようになった。また、環境整備当初はデジタル教材等のソフト面の整備が伴っていなかったため、児童生徒が時間や場所にとらわれず主体的に学習に取り組み、個別最適な学びを推進するところまでは至らなかった。しかしながら、ICT を活用した遠隔教育など多様な学習を支援する知見が広がったことは、大きな変革とも考えられる。

現在ではデジタル教材等を活用し、持帰り学習などを推進することで主体的な学習機会を促進している。

【鰯ヶ沢町教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

3. 1人1台端末の今後における利活用方策

1人1台端末については、公教育における必須ツールとしての役割を考慮し、計画的な維持・更新に取り組む。

GIGA第2期においては、第1期での課題を解消しつつ、個別最適かつ協働的な学びや主体的な探求学習などのさらなる質の良い教育環境を実現することが求められている。

また、鰯ヶ沢町では今後、児童生徒の情報活用能力をさらに重点的に促進させる取組を計画中であり、また、町の教育基本目標である「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」を達成し続けるため、ふるさと教育やキャリア教育のさらなる充実を推進していく。

上記のため、通信環境については、主に学校施設内に整備した情報インフラ（無線LAN環境等）の環境改善・維持を行う。通信不調等によるICT利活用の障害要因を解消し、児童生徒および教職員の意欲を阻害することなく、授業等においてさらに安定的かつ高速な通信環境を確保することで、新たな学びへ挑戦する機運を醸成する。

時間や場所にとらわれない通信環境を目指すことで、個別最適かつ協働的な学びの機会の創出を図るほか、災害など多様な事情等により学校に来られない児童生徒への学習や心の健康観察の機会を確保するなど、対面とオンラインのベストミックスを目指す取組を展開する。

また、アクセス制御等による対策を講じた上で、学習系ネットワークと校務系ネットワークの統合や汎用クラウドツールの積極的な活用を推進する。これらにおいて、1人1台端末を活用した授業・校務実践のための教員研修等を通じて、紙とデジタルの併用の在り方や創意工夫を生かした学習活動の充実、アクセシビリティの向上等、これまでの現場実践とICTのベストミックスを目指した学校DXを検討し、ICTを学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるような学習機会を創出していく。

そのため、授業・学習支援の素材として質の高い多様なデジタル教材（ドリルや動画、音声等）やソフトウェア、クラウドサービスの活用を推進し、これらの教育データを利活用することで、児童生徒が主体的に学習に取り組み、才能を伸ばす個別最適な学びに繋げる取組を展開する。

また、児童生徒が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、協働的な学びの充実を目指したICTの活用方法について有効事例等の情報を共有するなど、教職員の知見を広げる取組を展開する。